

社会福祉法人ゆうのゆう 事業報告 2009 年度

2009 年 4 月 1 日～2010 年 3 月 31 日



- ・ 総括
- ・ デーセンターモモの家
デーセンター機関車
デーセンター夢飛行
- ・ 自主製品、車イスダンス

【目次】

- ・ リサイクルショップ、還元金
- ・ 一泊旅行
- ・ 後援会・ボランティア
- ・ 医療的ケア
- ・ スタッフ体制、決算

総括

小規模通所授産施設から指定生活介護施設に移行（08年1月）してから1年以上が経過し、運営は決算書の通りおおむね順調に推移しています。

今年度は、老朽化の進む「デーセンターモモの家」（福島区）を8月に移転させました。今回の移転にあたっては、地域との交流をハード面からも促進できるよう、特に建物のデザインについて、建築設計事務所に設計を依頼。リサイクルショップと一体化した施設や、同じ植物を施設内外から視認する環境、利用者の絵画活動の作品を壁紙に取り入れるなど、新しい工夫を随所にちりばめ、関係者から高い評価をいただきました。改修にあたっては、物心両面にわたり多くの方々のご支援をいただきました。感謝申し上げます。

そのモモの家では、移転後の8月から9月にかけて、利用者・スタッフの双方から新型インフルエンザの発症者8名が出ました。うがい・手洗いの励行に努め、幸い集団発生には至りませんでした。今後の法人の衛生管理に課題を残しました。

また、ご家族の高齢化が進み、家庭でケアを続けることに不安を感じられたり、また実際に困難になるケースが増えてきました。地域での生活を継続する方法として、グループホーム・ケアホームの設置を進めようと、ご家族とスタッフが定期的に話し合いを続ける「輪（つながり）」では回を追うごとに議論が深まっており、2011年度中にホーム設置を目指すこととなりました。

日本の経済また社会に閉そく感が漂うなか、自らが立つ地平は自ら切り開くという気概が、スタッフ個人そして何より組織自体にますます求められていくでしょう。それにも関わらず、職業意識の変化は進み、福祉に携わることの“賃金労働”化は避けられそうにもありません。若い世代の一種の“割り切り”は、今後の福祉を担う世代に逆に重荷となっていくでしょう。このような社会状況下で私たちが重症心身障害者の地域支援を担うに必要なものは何か。それは日々接する利用者さんのなかにしか見出すことはできず、それを見失うことは、活動の終焉を意味するほかないことをスタッフは自覚すべきでしょう。

2010年6月30日

社会福祉法人ゆうのゆう
代表理事 小林美穂

デーセンターモモの家

◇活動状況…

新施設への移転に伴い、リサイクルショップをショップカシオペアと名付け、リニューアルし活動を始めました。引き続き、地域との交流に努めながら活動していますが、継続的に多くの人に足を運んでいただくには、さらなる工夫が必要です。またジャスコ（野田阪神店）で毎月1回開かれるイエローレシート時には、利用者と共に出かけ PR 活動を行うことも恒例となりました。さらに、地域で開催されるフリーマーケット等に積極的に出店し、売り上げ増に努力しました。

モモの家では利用者・スタッフともインフルエンザの感染が散発し、プール外出などを控えることとなり、一部の活動に支障も生じました。また通所については、各利用者の判断としたため、一部の利用者は通所をお休みしました。マスク等でも指摘された通り、このような場合に介護給付費の支給がないとたちまち運営に窮することとなり、制度的な課題を残しました。

感染者はスタッフ2名、利用者6名の計8名。大阪市や保健所にその都度報告を行い、指導を受けました。予防接種については、スタッフは通常のインフルエンザ接種は行いましたが、新型は対象となりませんでした。

◇行事…

4月	入所式（西成区民センター）、お花見、フラワーフェスタ参加
5月	一泊旅行（滋賀旅行）
6月	なにわゴスペルコンサート
7月	一泊旅行（長野旅行）、プール ショップカシオペアオープニングセール
8月	移転
9月	グループ外出
10月	一泊旅行（淡路島旅行）、グループ外出
11月	一泊旅行（鳥取旅行）、グループ外出、伊たこ屋出張
12月	コンサート、イルミネーション外出、クリスマス会、忘年会 ショップカシオペア X'mas セール
1月	新成人お祝いの会、あいあいまつり参加、初詣
2月	もちつき大会、バレンタイン、車いすバスケット観戦
3月	雛祭り、ホワイトデー、ジャスコ手作り市、車イスダンス発表会 センバツ高校野球観戦

デーセンター機関車

◇活動状況…

新しい利用者、スタッフが加わり、活動の雰囲気になたなものを感じた1年でした。外出の機会がこれまで以上に増える一方、利用者・スタッフの男女比のバランスによって活動が制限されることもありました。来年度以降の利用者への対応を考慮して、施設環境の整備が課題となってきました。

◇行事…

4月	入所式（西成区民センター）、お花見
5月	一泊旅行（滋賀旅行）
6月	グループ外出・なにわゴスペルコンサート
7月	一泊旅行（長野旅行）、プール外出
8月	夏祭・プール外出
9月	
10月	一泊旅行（淡路島旅行）、グループ外出
11月	一泊旅行（鳥取旅行）、なにわ保険生協まつり（バザー出店） もちもち感謝祭（あかまつ園バザー）
12月	イルミネーション外出、クリスマス会、グループ外出
1月	十日戎詣
2月	節分豆まき、バレンタイン、グループ外出、車いすバスケット観戦
3月	雛祭り、車イスダンス発表会、ホワイトデー

デーセンター夢飛行

◇活動状況…

2ヶ月に1回開催の誕生日会は、当日のイベントやプレゼントにスタッフも工夫を凝らし、毎回利用者が期待できる行事へと発展しました。またワーキングホリデースタッフによる国際文化教室をほぼ月1回実施し、恒例行事に成長しつつあります。

リサイクルショップの運営では、引き続きインターネットオークションを利用しているほか、地域出展の方のブースは、商品の陳列が美しく、スタッフは大いに参考になりました。しかし、グローバルショップのコンセプト実現には、スタッフの意識をさらに高める必要があり、利用者の日々のケアとショップ活

動の位置づけを改善する必要があるようです。

◇行事…

4月	入所式（西成区民センター）、お花見
5月	一泊旅行（滋賀旅行）、
6月	グループ外出・なにわゴスペルコンサート
7月	一泊旅行（長野旅行）、プール外出
8月	プール外出
9月	グループ外出、プール外出
10月	一泊旅行（淡路島旅行）、グループ外出
11月	一泊旅行（鳥取旅行）、グループ外出
12月	イルミネーション外出、クリスマス会、忘年会、グループ外出
1月	新年会、新成人お祝いの会、グループ外出
2月	車いすバスケット観戦、グループ外出
3月	車イスダンス発表会、センバツ高校野球観戦、グループ外出

自主製品

モモの家では、今年度も自主製品の製作に力を入れました。ビー玉を用いたポストカードの制作だけでなく、羊毛を用いたアクセサリやストラップ、オーブクレイを使ったマグネット、包みボタンを用いた髪留め等々…。地域フリマなどに出店の際には、自主製品の売上が非常に好調な時もあり、利用者の還元金アップに後見していますが、今後は費用対効果の練り直しや、より販路を広げる企画力が課題となってきそうです。



車イスダンス

講師を招いて月1回の車イスダンス練習もおなじみのものとなりました。帝塚山ダンススクールから松浦吉谷さんを講師にお招きし、レベルアップを図っています。3月の発表会は、西成区民センターで行い、父母らも招いて開催。華やかなドレスと効果的な演出で、大きな拍手を浴びました。

一方、年々レベルアップする技術を学ぶことにスタッフが精いっぱいとな



り、活動の方向性を明らかにすることも必要となっています。

the body shop

化粧品専門店 the body shop(ザ ボディ ショップ)のスタッフが月に1度、私たち3施設を訪問し、ハンドマッサージのボランティア活動を行っていただきました。緊張の強い利用者さんにおいては、香りとマッサージで心身共にリラックスできる時間を設けることができました。来年度は、さらに、深い内容で実施していけるよう検討しています。



リサイクルショップ・利用者還元金

今年度も、各施設ともに売り上げ増を目指し、活動しました。地域で開催されるフリマなどへの出店だけでなく、インターネットを活用した販売も行いました。また「実習生を指導するのはスタッフではなく、利用者である」との考えから、実習生の受け入れ費用を利用者還元金に含めており、今年度は大阪歯科大の実習生を受け入れるなどしたため、売上増につながりました。

【売上】

ショップゆうのゆう(デーセンター夢飛行)	474669円
ショップカシオペア(デーセンターモモの家)	390902円
ショップ機関車(デーセンター機関車)	260179円

合計 1125750円

1人当たり15420円の還元金で過去最高額。4月の入所式での発表は大いに盛り上がりました。

一泊旅行

行き先数ヶ所の案をあげ、アンケートをとったところ、滋賀・長野・淡路島・鳥取旅行となりました。

滋賀旅行(5月)	…	利用者12人	父母5人
長野旅行(7月)	…	利用者16人	父母6人
淡路島旅行(10月)	…	利用者22人	父母6人
鳥取旅行(11月)	…	利用者17人	父母10人



全体として、各行程で多少、難があることもありました。全体としては、景色や食事、温泉を満喫し、年に一度の旅行を楽しむことができました。来年度は、新幹線に続く新たな挑戦として、飛行機を利用した韓国旅行も計画しています。



後援会

のべ会員数は1000人を超えていますが、死亡、退会もあり、最近の会員数は伸び悩んでいます。今後、新拠点の設立、機関車の移転、グループホーム・ケアホームの設立が控えています。福祉制度の行方が混とんとするなか、多くの方々に支えていただくことの重要性は増すばかり。また使途が自由な運営費の確保は今後ますます重要となってきます。

しかし、友人・知人等に呼びかけ、後援会員を勧誘、獲得できる関係者、スタッフはごく一部であり、後援会員の獲得が活動を支える重要な柱の一つであることをどのように皆に浸透させるのかが課題となっています。

ボランティア

重度の障害のある人たちの生活を支えていくためには、多くの人たちの支援を必要とします。出張美容室ボランティアでは、日常美容室に行くことの困難な利用者が流行りのヘアスタイルに挑戦する一方、日頃は接する機会の少ない重い障害を持った方々に若い美容師らが接する機会を提供する場でもあります。利用者側の希望が多く、抽選での参加にはなりますが、毎回、参加された利用者のカットは、ご家族、スタッフからも好評です。



医療的ケア

昨年度同様、加齢、障害の進行等により医療的ケアは増加傾向にあります。近年、医療的ケアに関する法整備が注目され、さまざまな団体が活動を行っています。しかし、重い障害を持った方々の地域生活を支えるには、医療的ケア

を担うスタッフの養成、法整備よりも、医療的ケアの定義の再構築が必要です。このままでは法整備をしても、さらに細かな医療的ケアの課題が残るだけであり、医療技術の進歩により現在の法整備すらも陳腐なものとなるでしょう。

スタッフの支援が「生活支援」でなく、「医療技術支援」に陥ることのないよう、重症心身障害者への支援をする福祉スタッフは常に意識する必要があります。胃ろうのケアや食中、食後、車いすから降りる座位の姿勢には関心が持てても、その利用者さんの食事する場所が施設内で年中同じ場所であることに気づくことは難しいという現状は、福祉スタッフが支援の目的を見失っていると言っても過言ではないでしょう。

決算

順調に運営は推移しています。スタッフの年齢構成も比較的若い層が多く、スタッフ配置も最高基準の 1.7 : 1 を超えているものの人件費は一定水準以下となっています。しかし、一部スタッフにはスタッフ配置と運営状況との関係について関心が薄い傾向があり、理想と現実の差をどのように埋めて行くのか、スタッフ自身の実践力が試されているのであるという現実を認識させる方法の試行に今後も苦しむことでしょう。（決算書は別紙参照）

2010年度

「デーセンター機関車」（都島区）は現在、「モモの家」の従たる事業所ですが、利用者が増え、スペース上の課題が顕著になりつつあります。このため環境改善や新規の利用者を受け入れていくため早期の移転を検討しています。

また、「デーセンター夢飛行」（西成区）も同様、利用者登録が 30 名を超えています。担当制を取らず、一人のスタッフが全員の利用者をケアできるという前提での活動には、1 施設の利用者を一定数に制限する必要に迫られます。このため同じ課題を抱える「デーセンターモモの家」（福島区）との間で新拠点を設置することを検討します。

既述のように、グループホーム・ケアホームの設置を 2011 年度に目指し、その活動を行います。物件探しや制度の学習、スタッフ配置、入居希望者の決定方法について話し合いを行います。

以上